

Nerhol

とき・7/12(土)～10/13(月・祝)

ところ・2階展示室

内容・Nerhol(ネルホル)は、グラフィックデザイナーの田中義久(1980-)と彫刻家の飯田竜太(1981-)により2007年に結成されたアーティストデュオです。連続写真や映像から抽出した画像の出力紙の束を彫り刻む独自の制作手法を基軸としつつ、その観測範囲を他者や他領域と接合し、時空間を超えた因果関係の複雑な絡み合いや、不可視化された物語までも語りうる豊かな表現へと深化させてきました。これまでの表現活動の歩みを振り返った千葉市美術館における個展(2024)を経て、新作・未発表作を中心に構成するこの展覧会は、彼らの多層的な探究の現在地と表現言語の新たな展開を目撃する機会となるでしょう。

観覧料・一般1400円(1120円)、大高生1120円(900円)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※企画展観覧券(ぐるっとパスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。



Nerhol 《Piano sonata 01》2025年
©Nerhol Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery

《関連イベント》

事前申込制イベントの詳細や申込方法は、当館ホームページをご覧ください。

○アーティスト・トーク

登壇者・Nerhol(田中義久、飯田竜太)、大浦周(当館学芸員)
とき・7/20(日)15:00～16:30(開場は14:30)

ところ・2階講堂/定員・80名(当日先着順)/費用・無料

○ワークショップ①

講師・Nerhol(飯田竜太)

とき・8/17(日)10:30～12:00

ところ・3階創作室/定員・15名(事前申込制・要参加費)

対象年齢・5歳～小学6年生 ※中学生もお申込みいただけます。

○ワークショップ②

講師・Nerhol(飯田竜太)

とき・8/17(日)17:00～19:00

ところ・2階講堂/定員・20名(事前申込制・要参加費)

対象年齢・高校生以上

○担当学芸員によるギャラリートーク

とき・8/31(日)、9/20(土) 各15:00から30分程度

ところ・2階展示室/費用・企画展観覧料が必要です。

ミュージアムショップおすすめ商品

「磯崎新クリアファイル」のご紹介です。バッグの中で折り目をつけたくない書類を持ち歩くときなど、日常使いに便利なA4サイズ。カッコいい磯崎作品を身近に感じることができそうです。デザインは3種類です。還元シリーズ 北九州市立美術館(作品名「MUSEUM-II」)と《内部風景III 増幅性の空間 -アラタ・イソザキ》は当館所蔵作品です。

【左】版画 還元シリーズ 北九州市立美術館

【中】版画 内部風景III 増幅性の空間 -アラタ・イソザキ

【右】北九州市立美術館 アクソメトリック図

(平面図を傾けて高さ方向の寸法を加えた立体図)



各550円(税込)/H310mm×W220mm

初個展のころ

ちょうど50年前の1975年6月、京都市立芸術大学の版画教室の4回生であった山本容子(1952年旧浦和市生まれ)は、京都のアート・コアギャラリーで初めての個展を開きます。カミソリ、バンドエイド、おろし金といった身の回りの小物を版面の隅に型押し(転写)をして、それを手本にしながら同じ形を繰り返し描いた銅版画を発表します。それらは後に「JUNE BRAND '75」というシリーズ名が付されました。フリーハンドの描画で同じモチーフが緩やかに集積され、アルファベットの活字が添えられた画面からは、軽やかな視覚的なリズムが伝わってくるだけでなく、何やら物語が生まれてくるような予感すら感じられます。2004年に刊行された自叙伝『マイ・ストーリー』のなかで、作者は当時の制作をこう振り返ります。「むろん、正確に同じ形にすることなどできるわけがない。反復不能としての反復、とでもいえばお分かり頂けるだろう。たとえ、いつも同じ言い間違いをする人を見て感じるユーモアと、似た領域のものだ。」初個展で発表された作品群を改めて見ると、この作家の志向性の核が、すでにはっきりと表れていることが分かります。

山本容子が美術を志し、作家として自己形成していった1970年代は、戦後の日本の美術が重要な転換期を迎えていた時代でした。欧米の最先端の美術を後追するような、日本の美術のそれまでのあり方を疑問視する動きが1960年代末から浮上し、美術の概念や制度、表現の原理、自己と外界の関係などを、自分たちの足元から問い直す気運が高まりました。表現することよりも、美術や表現をどう成り立たせるべきかを考えることが重視されたのです。手わざや自己表現を介在させた作品は敬遠され、事物やイメージをそのまま提示したり、制作のコンセプトやプロセスを明示したりする作風が議論の対象になっていきます。それに連動して、写真や版画を用いた制作も盛んになり、複製メディアへの関心が高まっています。

京都市立芸術大学に通うなかで、同時代の美術状況に徐々に接していった山本容子は、その様子を前述した『マイ・ストーリー』で詳しく記しています。同書は私生活も含め自らの軌跡を率直に綴ったものですが、山本容子が大学時代にどのような人々を知り、銅版画を選択し、作家としてスタートを切ったかを知る上で、貴重な証言になっています。とりわけ、京都市立芸術大学において1970年に新設され、開放的な

MOMAS コレクション (収蔵品展)

とき・6/7(土)～8/31(日)

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※6/7(土)～6/19(木)は、埼玉県美術展覧会(県展)開催中のため半額

◇セレクション

ピカソ ほか

◇特集:デビュー50周年記念 山本容子

山本容子の初めての個展から、今年で50年を迎えます。デビュー当時を振り返りつつ、1970年代後半から80年代半ばまでの初期作品をご紹介します。



山本容子 《Redden Garden (After Eyes)》
1983年、ソフトグラウンド・エッチング、紙

《関連イベント》

○アーティスト・トーク

講師・山本容子(出品作家)/聞き手:担当学芸員
内容・デビュー当時の様子や初期作品について、作者が語ります。

とき・7/27(日)15:00～16:30(開場は14:30)

ところ・2階講堂/定員・80名(事前申込制)/費用・無料

申込方法・電子申請による事前申込制。当館ホームページから、お申込みください。

※申込開始は7/1(火)から。1申込につき1人。先着順。

○コレクション・トーク

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

① とき・6/28(土)15:00～15:30

担当学芸員・篠原優

作品・上村次敏《サン・マルコ広場》1985年

② とき・7/5(土)15:00～15:30

担当学芸員・平野到

作品・山本容子《Papa's and Mama's (JUNE BRAND '75)》1975年

③ とき・8/24(日)15:00～15:30

担当学芸員・大越久子

作品・斎藤三郎《敗戦の自画像》1948年

とき・9/6(土)～11/30(日)

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料

◇セレクション

フジタ ほか

◇アーティストの絵本

元永定正やタイガー立

石の版画作品と絵本を

あわせて展示します。

◇MOMASの動物園

動物をモチーフにした

作品が大集合!

動物に向けた作家の眼

差しや人間と動物の関

係を読み解きます。



小松崎邦雄《五月の花嫁》1965年
油彩、カンヴァス

《関連イベント》

○コレクション・トーク

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

① とき・9/21(日)15:00～15:30

担当学芸員・吉岡知子

作品・フェルナン・レジェ《誕生日》1950年頃

夏休み MOMAS ステーション

とき・7/12(土)～8/24(日)

ところ・1階エントランスロビー

内容・夏休み限定の子供向け受付「MOMASステーション」を設置します。初めて美術館に来る子供たちや、美術館に関する宿題がある子供たちに、美術館を楽しむためのワークシートや参考になる資料を提供したり、研修を受けたボランティアスタッフが相談に応じたりします。お気軽にご利用ください。お待ちしております。

《MOMASのとびら サマー・アドベンチャー 関連イベント》

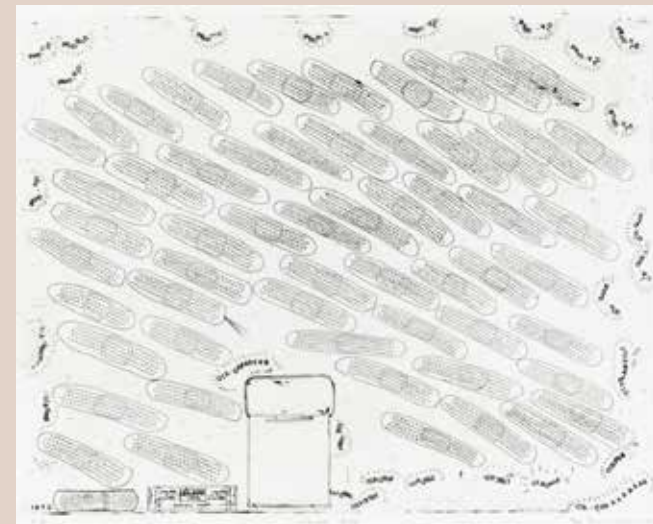
○丸シールでいろいろな世界を描こう!

とき・7/27(日)～7/31(木) 10:00～12:30、13:30～16:00

内容・丸シールで風景に合う生き物等を作成します。

ところ・地階一般展示室1/対象・どなたでも/費用・無料

MOMASコレクション「特集:デビュー50周年記念 山本容子」 2025年6月7日(土)～8月31日(日)



上 《Papa Aid (JUNE BRAND '75)》1975年
ソフトグラウンド・エッチング、紙
下 《Papa's and Mama's (JUNE BRAND '75)》1975年
ソフトグラウンド・エッチング、セリグラフ、フロッター・ジュ、紙
この作品は銅版画技法と併用し、カミソリの箱のイメージはセリグラフ(シルクスクリーン)の版画技法で、赤い部分のカミソリはフロッター・ジュで表現されている。

※本紙記載の展覧会やイベントは、変更・中止となる場合があります。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。



所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1
TEL・048-824-0111 FAX・048-824-0119 MAIL・p240111@pref.saitama.lg.jp
開館時間・10:00～17:30 (展示室への入場は17:00まで)
休館日・月曜日(7/21、8/11、9/15は開館)、6/24～27
入館料・無料 観覧料・上記をご覧ください。

交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ 埼玉東立近代美術館東」では駐車料金の割引があります。
お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。
ただし、台数に限りがありますので、事前にご連絡をお願いします。

